

脱炭素×経済成長のまちづくり 「安来市再生可能エネルギー地産地消 ビジョン」の策定に向けて

問い合わせ
環境政策課
☎23-3098

令和4年11月から令和5年2月までの期間に計3回、策定委員会（以下、委員会）を開催し、委員会の皆さんと検討を重ねてきた「安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョン」が完成しました。

3月24日には委員会の伊藤

▶策定したビジョンは、全24ページで構成しています。

安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョン Towards 2030

エネルギー脱炭素の転換と、両立も進める産業や地域の創生ストーリー



2023年3月
安来市・安来市商立再生可能エネルギー地産地消ビジョン策定委員会

豊委員長（島根県立大学地域政策学部長）から田中武夫市長へ策定したビジョンの提出がありました。この中には安来市が目指す2030年の姿と、それに向けた取り組みの方向性や目標指標、それにより期待される効果などについて描かれています。

再生可能エネルギーを上手に活用し、電気や熱を「地産地消」することで、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの削減や地域経済の好循環に繋がります。

このビジョンは、今後市民や事業者の皆さんと一緒に考え、取り組んでいくツールとして活用していきます。

本編のほか、概要版もホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。



歴史資料館資料 連載②知っておきたい

安来市の歴史

安来市立歴史資料館の展示品を通して安来市の歴史を紹介する、このシリーズ。第2回は古くは時代の安来を紹介していきます。

旧石器時代・縄文時代の安来

市内でいつ頃から人々が暮らし始めていたのか、皆さんご存じでしょうか？それを示すものが今紹介する、旧石器時代の遺物です。右下にある写真の石器は小汐手遺跡（黒井田町）から出土した削器（ナイフのような道具）と呼ばれるものです。

島根県内で確認された最古の旧石器遺跡は約3万年前とされています。



▲旧石器時代～縄文時代の展示コーナー（歴史資料館）。

ます。小汐手遺跡の石器は遺構などに伴って出土したものではありませんが、年代ははっきりしませんが、少なくとも数万年前から市内に人々の暮らしがあったことを示しています。

また、意多伎神社（飯生町）からの出土と伝わる尖頭器（槍のような道具）という石器や菅沢遺跡（広瀬町菅原）からは縄文土器が出土しています。市内での時代の遺跡は少なく、詳しい生活の様子など分からないことも多いのですが、岩屋遺跡（荒島町）では、縄文時代の海岸線の跡が確認されています。縄文時代は温暖で海面が高く、内陸まで海が入り込んでいたことが分かっています。こうした自然環境や出土遺物から当時の人々の様子に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

問い合わせ

歴史資料館 ☎32-2767



旧石器時代

削器

▲切ったり、削ったりする道具

